

M.A.D.ギャラリーにて、フランク・ブッフバルトによる 最新作の Nixie Machine II および数々の印象的な Machine Lights を展示

M.A.D.ギャラリーの創設 5 周年を記念し、ドイツ人彫刻家フランク・ブッフバルトが情熱をもったエンジニア、ダリボル・ファルニーとのコラボレーションで制作した、新型の時計 Nixie Machine II を披露した。ジュネーブ、ドバイ、台北の M.A.D.ギャラリーのみで購入可能な唯一無二の置き時計 12 点のコレクション。そこに見られる、最初の Nixie Machine からの進化をぜひ皆様にも感じていただきたい。

フランク・ブッフバルトの驚くほど手の込んだ作品は、ジュネーブに設立された初の M.A.D.ギャラリーのオープン時から、他の芸術家の作品と並んで展示されている。ブッフバルト作の大胆な Machine Lights、そして最初の Nixie Machine は、MB&F の創業者マクシミリアン・ブッサーから高い評価を受け、ブッフバルトの作品は各地の M.A.D.ギャラリーで常設展示されることになった。

Nixie Machine II

1950年代に登場したNixie管は、冷陰極表示装置とも呼ばれ、グロー放電発光を使用して数を表示する一般的な方法となった。Nixieという名称は、バローズ社の”NIX I”に由来すると考えられている。”Numeric Indicator eXperimental No.1”（実験的數字表示器第1号）の略語とされる。

各ガラス管にはネオンを中心としたガスが低圧で充填され、メッシュ状の陽極と数字の形をした層状の陰極があり、0～9の各数字を表示するために個別の陰極が必要となる。電圧が印加されると各陰極を覆うように特徴的な赤橙色のグロー放電発光が起こる。複数の管に電子回路を接続した複数桁のNixie管表示は、コンピュータ、時計、周波数カウンタなどに頻繁に使用された。しかしその後、おそらく魅力には欠けるが、より実用的かつ安価な発光ダイオード（LED）表示などに取って代わられてしまった。

最新作の Nixie Machine II は、最初に製作された Nixie Machine の進化版となる。デザインや組立、細かな仕上げに至るまで、ダリボル・ファルニーが制作した 6 本の Nixie 管を用いた時計のすべてのディテールが、それぞれ手作業で仕上げられている。

Nixie Machine II は、Nixie 管に魅せられたフランク・ブッフバルトとダリボル・ファルニーが共同で制作した作品で、偶然の出会いが実現につながった。運のいいことに、ファルニーはベルリンで開催された骨董機械の展示会でブッフバルトに出会い、ブッフバルトが伝説的な Nixie Machine の創作者であることにすぐに気が付いた。Nixie 管に魅せられた 2 人が出会い、新たに Nixie Machine II が開発されたのは運命的であったといえるかもしれない。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

E メール： jd@mbandf.com 電話： +41 22 508 10 36

ブッフバルトのインダストリアル作品の構造は、彼が考案した特徴的な設計原理と豊かな創造力が見事に合わさってできたものだ。長さ 1.2m となる鋼鉄・真鍮製の時計の台は、虫の手足のような形状で真ん中にある時計本体を支えており、また時をつかむ腕のように鋼鉄の支柱が Nixie 管を囲んでいる。柔らかい触手のような配管から Nixie 管に電力が送られ、情報技術が装置の核として活用されている。目に見える Nixie 管の内部構造が赤橙色のグロー発光放電で覆われることで、産業装置としての見た目と、生き物のような個性を兼ね備えた装置ができあがった。

ファルニーはチェコ共和国の工房にて Nixie Machine II に使用する、現代的な真空の Nixie 管を制作している。管の内部構造は SF さながらで、管の中に詰め込まれたハチの巣状の格子とタングステン線がガラスと融合し、膨らんだ形のガラスシリンダーに包まれた金線細工の数字が光り輝く。ファルニーは Nixie 管への情熱に突き動かされ、何年もの間研究と実験を重ね、有名な真空の Nixie 管「Z568M」を復活させることに成功した。

Nixie Machine II の中核に用いられている電子装置は、全く斬新な方法で利用されている。Wi-Fi で機能する強力な電子ドックを用いたこの時計は、インターネットに接続すると自動的に正確な時刻に調整されるため、手動で設定する必要はない。スクロール効果、日中/夜間モード、数字の調光制御、タイムゾーン設定など、全ての設定・特別機能をオンラインで直感的に合わせられる。時計はオフライン時も動かすことが可能で、背面のノブで調節できる。

2 人の協力で完成したこの発明品を見れば、畏敬を感じるとともに、生命を吹き込まれたこの時計を目にしたすべての人々が話題にしたいと思うだろう。

Machine Lights

ブッフバルト作の Machine Lights は、まるでエイリアンのような四脚の台と、人体さながらのシンメトリー効果により、解剖学的フォルムと呼べるほど威厳のある手作りランプである。

ブッフバルトは自ら創作した機械について次のように記している。「注意深く観察すれば、Machine Lights は人の手ではない源から輝きを放っていることに気づくはずですが、私はこの作品に 10 年以上取り組み続けましたが、本当は自分の作品だとは思っていません。Machine Lights は自身の性格を持った生き物なんです。」

ブッフバルトが、自らの彫りが生み出す光のデザインの方向が合っていると感じるまでには長い時間が必要で、完全に満足したと言えるまでにはさらに長い時間を要した。「個々のランプの模型は、着想を得たときに思いつくまま設計したものではありません。」と説明する。「理解し難いが意味のある形を実現しようと、長い間暗中模索したというべきでしょう。」

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

E メール： jd@mbandf.com 電話： +41 22 508 10 36

ランプの一台一台は 200 以上のパーツを複雑に組み合わせて制作しており、つや出し・黒染め加工を施された鋼鉄によって、深い艶のある真鍮と可視光フィラメントが発する暖かくて黄色い輝きが引き立てられている。真鍮パーツは全て入念に手で磨かれ、鋼鉄パーツは黒い絹を思わせるまで何回も化学薬品を用いて手作業にて艶出しされている。作品には手吹きガラス球が添えられることも多い。

10 年以上もの間を **Machine Light** コレクションの様々なデザイン考案に費やしてきたブッフバルトはこう言う。「ようやく **Machine Lights** が私の想像する世界を描き出すようになり、今や十分なレベルの完成度に達したように思います。」

開発プロセス

ブッフバルトの作品が目標とするのは、世代を超えて受け継がれていくことだ。特別なデザイン方法に合わせて制作しているわけではないので、現在のトレンドや市場からの要求にとらわれずオブジェを自由に制作でき、顧客や芸術鑑定家からの好意的な反応も参考にしない。

ブッフバルトの哲学および着想は、過去や日常の経験から得たものだ。「鉛筆、糊、段ボール... 鉄道駅、蒸気機関車... 子ども時代の思い出。創造力と熱意こそ、私の人生を紡いできた黄金の糸です。これこそが私の原動力なのです。」と説明する。

新たな開発に取り掛かるにあたり、まず簡単に素早くスケッチを行い、基礎として使う。その後、デッサンを繰り返していく。ブッフバルトは普段、大まかな下絵は鉛筆とマーカーペンで描き、気負いなく変更を加えていくことで新しいプロジェクトの本質を見極めていく。

「私の作業はオープンで、素早く修正可能でなければなりません。いつでも一筆で細部の変更が可能です。これは絶えず進化していくプロセスなのです。」とブッフバルトは説明する。「アイデアや印象をフォローしていきます。私はスケッチやデッサンが大好きです。自分のビジョンに命を与えてくれるからです。もし頭の中でアイデアを具体化できなければ、満たさされない気分になります。」

スケッチが完成すれば製図作業を行うが、芸術的な作業が工房では続く。素材の性質や思いついたアイデア次第で、当初のコンセプトが変容する場合もある。興奮に満ちたダイナミックなプロセスだ。

ブッフバルトにとって金属は創造的な作品を製作するのに完璧な素材であり、様々な技術を駆使している。例えば、溶鉱炉で溶かし、巨大な機械で成形することを「創造の営み」のように感じる。エネルギーとパワーが金属に注ぎ込まれるのだ。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

E メール： jd@mbandf.com 電話： +41 22 508 10 36

バックグラウンドーフランク・ブッフバルト

ベルリンに拠点を置くフランク・ブッフバルトは 1956 年、ドイツのハノーバーに生まれた。ベルリン芸術大学でデザインを専攻した後、フリーランスのアーティスト、SF イラストレーターとして働き、1993 年から金属製家具のデザインと製作に傾倒していく。

あらゆる種類の金属製家具を製作したが、徐々にランプの製作に関心を向け尽力するようになった。しかし、自らの作り出したいわば光の彫刻のデザインに満足するには長い時間を要した。

長年使用可能なオブジェを入念に制作するブッフバルトのスタジオは、ベルリンの古い工場を改装した建物の中にある。レンガ、大きな窓、暗い階段、アンティークな電気スイッチが備わり、第二次大戦中に受けた損傷が目に見える。入口には鋼鉄棒と金属プレートがはめ込まれている。スタジオの中に入ると、壁一帯がスケッチで覆われ、作業机には旋盤、溶接機、手作業用の機器がずらりと並ぶ。熟練したアーティストが素材を使って個性を表現するのに必要なものが何でも揃う。

ブッサーは作業に取り組むブッフバルトの様子を見る機会に恵まれた。「素晴らしい経験でしたよ。」 MB&F の創設者である彼は言う。「フランクも彼のアトリエも本当に見事だ。金属棒や金属塊でいっぱいなのです。」 彼は何でも自分でデザインし、旋盤にかけ、組立て、仕上げる。それこそが彼にとって日常なのです。」

「フランク・ブッフバルトの Machine Lights は、M.A.D.ギャラリーの要となる優れた機械アートの典型です。」 とブッサーは付言する。「フランクは光を放つマシンを創作しています。彼の作品は実用を超越し、正真正銘、芸術作品の域に達しています。」

一つ一つの作品にブッフバルトの魂が込められている。彼の熱意は、きめ細かな唯一無二の創造性あふれる、彼の芸術作品に見て取ることができるのだ。

バックグラウンドーダリボル・ファルニー

Nixie 管に対する深い情熱からファルニーは長年にわたり研究と実験を重ね、著名な「Z568M」をもとに現代的な Nixie 管を製作した。2 年間にわたり数多くの試行錯誤を繰り返したが、彼の熱意そしてエンジニアとしての経験に支えられて自身の作品「RIZ658M」を完成させた。

ファルニーが Nixie 管を制作するスタジオは、チェコのトボルナ近郊の古城の中にあり、実験室と工房を兼ねている。室内にはガストーチ、ネオンガス容器、点溶接機、真空ポンプ、漏電探知機といった数多くの技術装置、その他、真空 Nixie 管を正確・完璧に製作するために重要な機器が数多く揃っている。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

E メール： jd@mbandf.com 電話： +41 22 508 10 36